

特定非営利活動法人日本火山学会
平成 25 年度臨時総会議事録

1. 日時：平成 25 年 9 月 30 日(月)
午後 3 時 50 分から 4 時 20 分
2. 場所：福島県耶麻郡猪苗代町
猪苗代町体験交流館「学びいな」大研修室
3. 出席者：維持会員 45 名，有効委任状数 87 通
合計 132 名
4. 議案：
 1. 平成 25 年度事業経過報告の件
 2. 理事会議決事項報告の件
 3. 議事録署名人承認の件
5. 議事の経過の概要および議決の結果
出席者(委任状を含む)が 132 名で，定足数 91 名を超えていることを確認し，議長(定款により学会の会長)が平成 25 年度日本火山学会臨時総会の開会を宣言した。
 - (1) 第一号議案 平成 25 年度事業報告の件
平成 25 年度の事業について各担当理事からの報告(資料 1)に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した。また，除名者について審議を行い，全員異議なく承認した。
 - (2) 第二号議案 理事会議決事項の報告の件
理事会審議事項(資料 2)が宇都会長より報告され，全員異議なくこれを了承した。
 - (3) 第三号議案 議事録署名人承認の件
議長より本日の議事をまとめるに当たり，議事録署名人 2 名を選出することを諮り，武尾実氏および藤井敏嗣氏を選出することを全員異議なく承認した。

以上，この議事録が正確であることを証します。

平成 25 年 9 月 30 日

議長 宇都浩三 印
議事録署名人 武尾 実 印
議事録署名人 藤井敏嗣 印

(資料 1) 平成 25 年度事業経過報告

(1) 庶務委員会 (大湊理事，代読宇都会長)

1. 入退会希望・会員数について

	維持	学術	一般	団体	名誉	計
2013 年連合大会後	270	687	39	15	7	1,018
入会承認	2	16	0	0	0	18
会員継続	1	10	0	0	0	11
逝去	0	1	0	0	0	1
除名	2	6	0	0	0	8
2013 年秋季大会総会後	271	706	39	15	7	1,038

- ・ 会員継続数について：春季総会後の継続申請未提出者のうち，維持会員 1 名，学術会員 10 名から会員登録カードが提出されたため，退会取り消しとなった人数。
- ・ 除名者について：春季総会(連合大会)時点での除名対象者 17 名のうち 9 名から 8 月末までに会費が納付されたため，除名者が 8 名と減少した。

2. 主催・共催・協賛・後援について

- 協賛 1 件
 - ・ 日本地質学会第 120 年学術大会(仙台大会)巡検(主催：一般社団法人 日本地質学会)
- 共催 1 件
 - ・ 第 57 回粘土科学討論会(主催：日本粘土学会)
- 後援 0 件

3. 人事公募について

21 件の人事公募について「火山」に掲載を行った。

4. 転載・使用許可について

10 件の申請を受け付けた。

(2) 財務委員会 (森理事，代読宇都会長)

1. 会計状況について

現在のところ順調である。
会費未納の会員は会費を納入するよう呼びかけがなされた。

(3) 編集委員会 (寅丸理事，代読宇都会長)

1. 「火山」発刊状況について

【58-3 号】2013 年 9 月 30 日発行

2. 「火山」発行予定・掲載予定原稿について

【58-4 号】2013 年 12 月 27 日発行予定

論説 2 件，寄書 1 件

【59-1 号】2014 年 3 月 31 日発行予定

論説 2 件，寄書 1 件

3. 査読編集状況について

現在査読編集中原稿：計 5 編(論説 4 編，寄書 1 編)

4. その他

IAVCEI 総合報告書を準備中。昨年度・今年度の奨励賞

受賞者に原稿依頼中。

(4) 大会委員会（下司理事，代読宇都会長）

1. 2013 年度秋季大会について
 - ・参加者数: 241 名
 - ・発表数: 162 件（口頭 96 件，ポスター 65 件，招待 1 件）
2. 2014 年度秋季大会について
 - ・会場: 福岡市 福岡大学キャンパス
 - ・日程: 2014 年 11 月 1 日(土)から 11 月 3 日(月・祝)
 - ・現地討論会(予定): 雲仙岳，九重・別府

(5) 事業委員会（星濟理事，代読宇都会長）

1. 学会シンボルマーク(ロゴマーク)の普及について
 - ・ IAVCEI2013 大会において，ロゴマーク入り T シャツおよび缶バッジを作成・販売。
T シャツ 500 枚は完売。
 - ・ 火山学会ロゴマーク入り T シャツを本大会受付にて販売中。
2. 第 14 回地震火山子どもサマースクールについて
第 14 回地震火山子どもサマースクール「南から来た大地のものがたり」が伊豆半島で開催された。
 - ・日程: 8 月 3 日(土)，4 日(日)
 - ・活動場所 南伊豆ジオパークビジターセンター，下田市民文化会館など
 - ・主催: 公益社団法人日本地震学会，特定非営利活動法人日本火山学会，一般社団法人日本地質学会，伊豆半島ジオパーク推進協議会
 - ・参加者: 33 名
 - ・子どもゆめ基金から 84 万円の助成
来年度は島原半島にて開催。再来年度は南アルプスで開催予定。
3. IAVCEI2013 のホームページ移設について
年内を目途に，iavcei2013.com の内容を火山学会ホームページに移設予定。
年度内には，iavcei2013.com を廃止。

(6) 他学会連絡担当委員会（金子理事，代読宇都会長）

1. 科研費採択について
 - ・ 科研費(国際情報発信強化(A))が採択された。
 - ・ 平成 25 年度～29 年度で，年 22,000 千円～

25,000 千円。

2. EPS 誌について

- ・ 来年度からオープンアクセスジャーナルとして，Springer 社から出版される。
 - ・ 9 月 17 日から Springer Open での投稿受付を開始。
 - ・ 論文掲載料は下記の通り。
 - ・Corresponding author が共同出版 5 学会の会員の
場合 200 ユーロ，非会員の場合 600 ユーロ。
 - ・特集号のレター論文は，会員・非会員を問わず 100 ユーロ。
- 投稿時に，カバーレターへの会員情報の明記が必要。
- ・Corresponding author の氏名・所属学会・会員番号。
 - ・Submission code が必須。
コードは 5 学会外には非公開。火山学会員には 9 月 26 日にメーリングリストで送付済。
 - ・ EPS 誌ホームページ経由で電子投稿された論文の扱いについては下記の通り。
 - ・10 月 31 日までに受理分: テラ学術図書出版サイトで電子出版・冊子体出版。
 - ・11 月 1 日以降に受理分: 全て Springer Open で 2014 年 1 月以降に電子出版。200 ユーロ相当の会員向け論文掲載料を適用し，カラーページチャージはなし。
 - ・ バックナンバーも含めてテラパブから移行予定。
 - ・ EPS 誌”Frontier Letter”へは，各学会から 5 名程度推薦する。締切は 10 月 25 日。

(7) 学校教育委員会（萬年理事，代読宇都会長）

1. 公開講座等の実施について
「火山の形」実験教室を 9 月 28 日に猪苗代で開催。12 月 14 日に島原市でも開催予定。
2. 科研費の採択について
研究成果公開発表(B) 120 万円が採択された。
「火山の形」実験教室を 9 月 28 日に猪苗代で開催。12 月 14 日に島原市でも開催予定。
3. 火山教育の教育強化の評価について
教育強化の評価を，地震火山子どもサマースクール(8 月 3,4 日，伊豆半島)および秋季大会中の公開講座(9 月 28 日，猪苗代)において実施した。
4. JpGU 教育問題検討委員会の動向について
 - ・本年度から高等学校で「地学基礎(1 年向け)」と「地学(受験用)」の 2 本立てとなった。「XX 基礎」の 3 教科選択が課されたことから，地学の履修率が 7%から 18%に上昇した。履修者増加を受けて，「防災や環境」を地学に取り入れて履修者を増やすという議論はなくなった。
 - ・新指導要領策定に向けて，「XX 基礎」を残すように働き

かける。また、旧要領の「理科総合」の復活に備えて、地学に関する内容の検討を実施する。

(8) ジオパーク支援委員会（中田理事，代読宇都会長）

1. ジオパーク・シンポジウムの実施について
9月28日に猪苗代でジオパーク・シンポジウムを開催。
同日に、ジオパーク支援委員会も開催。

(9) IAVCEI2013 委員会（宇都理事）

1. IAVCEI2013 学術総会について
 - ・開催報告
 - ・2013年7月20日～24日に鹿児島市で開催。
 - ・現在報告書を作成中。11月13日の組織委員会で内容を承認後、「火山」に掲載予定。
 - ・組織委員会は、本年度末で活動終了・解散予定。
 - ・参加者数について
 - ・参加登録は1,069名で、これまでのIAVCEI総会（800名程度が多い）の中で最大規模。
 - ・参加者内訳は、日本399、米国131、イタリア50など。東アジアについては、ニュージーランド50、インドネシア29、韓国24、シンガポール18、フィリピン10、台湾7など参加多数。
 - ・火山学会会員の参加者数は登録上は275名。残り124名について、会員・非会員かを確認中。
 - ・学術講演について
 - ・最終発表数1,209件（口頭651、ポスター556）。
 - ・口頭発表会場数7、ポスター発表会場数2で、4分野37セッションを開催。
 - ・82件のキャンセルがあったが、ポスター発表者で埋め合わせるなどにより、プログラムの空きを最小限に抑えた。
 - ・参加・渡航補助について
 - ・250件の応募に対し、119件1300万円の補助を行った。
 - ・会計について
 - ・支出9,300万円に対し、収入が1億800万円と1,600万円程度の余剰金が発生した。

これは、寄付金収入と参加者数が予想を大幅に上回った(800名に対し1,000名)ため、使途は検討中。

(10) 60周年記念事業委員会（篠原理事，代読宇都会長）

1. 60周年記念事業について
火山学会の60周年(2016年)に向け、我が国の火山学の将来のあるべき姿を提案し、その実現を目指して、火山学の現状を把握し、今後推進すべき課題と方策の検討を行うために、「火山学の展望と課題」の基礎研究を実施する。
委員：篠原宏志(委員長)、石塚治、市原美恵、奥村聡、鬼沢真也、竹内晋吾、中道治久、長谷川健、前野深
2. 委員会活動について
2015年までの3ヶ年計画のうち、本年度は委員会委員による検討方針、検討課題の抽出および来年度以降の計画の立案を実施する。
これまでに、5月20日(地球惑星連合大会)、8月9日(東京大学地震研究所)、9月28日(猪苗代)において委員会を開催。
以降は、今年度中に1,2回の会合およびメール会議にて本事業での検討課題の抽出および具体的な検討方策を具体化し、理事会に来年度計画として提案する。

(11) 各賞選考委員会（高田理事，代読宇都理事）

1. 火山学会賞について
前年度の日本火山学会賞が該当なしであったことを受け、学会賞のあり方について議論を行った結果、以下の方針が示された。
 - ・表彰規定に書かれた各賞の定義変更はしない。
 - ・学会賞の推薦数が増えるよう、働きかけを強化する。
2. 表彰数の変更について
 - ・火山学会賞に関しては、従来の「1名以内」を「若干名」に変更する。
 - ・研究奨励賞に関しては、従来の「2名以内」を「若干名」に変更する。

(資料2) 理事会審議事項報告

(1) 委員会担当変更について

- ・地震火山子どもスクールの担当変更
事業委員会で担当を行っていた地震火山子どもスクールの学校教育委員会の担当に変更する。

(2) 日本火山学会原子力問題対応委員会(臨時)について

- ・目的：東日本大震災により発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原子力施設への立地・保全に対する火山影響評価を行うことが要求されている。このた

め、学術的な立場から意見交換・情報共有を行うとともに、日本火山学会としての倫理綱領を作成することを目的とする。

- ・ 委員会の形態：当面は臨時委員会として活動し、将来的に常設委員会とすべきか検討。
- ・ 開催形態：定期学術大会のうちに集まり意見交換するとともに、必要に応じてメールによる意見交換を行う。
- ・ 委員構成(案)：石原和弘(京大名誉教授)、宇都浩三(産総研)、小林淳(ダイヤコンサルタント)、中田節也(東大地震研)、藤田英輔(防災科研)、萬年一剛(神奈川県温泉地学研究所)、三浦大助(電力中央研究所)

(3) 火山防災委員会の常設化について

これまで臨時委員会であった火山防災委員会を常設委員会とする。

- ・ 理由：火山防災委員会は、火山防災に係わるテーマを広く検討し、その成果をもって社会に貢献していくことを目的として、2004年に臨時委員会として設置され、学会開催時の定例集会や公開シンポジウム開催、火山防災やハザードマップに関する情報収集と公開、および研究集会などの活動をこれまで10年間すすめてきた。

火山防災委員会の臨時委員会としての実績をふまえ、今後さらに長期的視野による活動によって火山防災関係テーマを検討し、その成果をもって社会貢献をすすめるために、常設委員会として継続的活動を行う。

- ・ 委員候補者：荒牧重雄、中村洋一、藤田英輔、山里平、萬年一剛、石峯康浩、星住英夫
- ・ 委員会開催：定例会合を地球惑星科学連合大会時および日本火山学会秋季大会時に開催し、必要に応じての臨時委員会の開催および委員間のメールによる審議を行う。